

所長からの「戒め」

学校を離れ、教育事務所に勤務することとなり、意気揚々としていました。指導主事訪問、要請訪問、実技指導等、訪問を依頼された学校に、喜んで出かけたことを覚えています。また、訪問前の準備では、教科の特性から離れた指導案をチェックしたり、当日の指導助言のキーワードを見つけ出したりしていたことが思い出されます。

ある日のことです。訪問から帰り報告書を書いていた時、所長が私の席の隣に座り、日頃の指導に感謝とねぎらいの言葉を掛けてくださいました。

同時に、所長は戒めるように、「学校の職員は、あなたに頭を下げているではありません。あなたが襟に付けているバッジ（役職）に頭を下げているのです。勘違いしないでほしいです。」

一瞬、目の前が真っ暗になると同時に、今まで訪問させてもらった学校の先生方の顔が頭に浮かび、まるで「裸の王様」のようで、恥ずかしさとやるせない思いに駆られました。

以来、訪問した学校では、校長先生の経営方針をしっかりと聞き、先生方の立場に立って、共に研修する姿勢で臨むことに心掛けてきました。

その後、異動で教育事務所から学校に戻った時も、教職員一人一人の立場を理解し、協働の精神を大切にした運営に努めてきたつもりでいます。

役職（椅子）が人をつくることの怖さを、当時の教育事務所長から学ばせてもらい、大過なく教職の人生を締めくくることができました。